

めざせ！ 苗場山麓ジオパーク

Vol.
3

振興協議会だより

〔発行日〕平成26年2月10日

〔発行〕めざせ！苗場山麓ジオパーク推進準備室

振興協議会 部会始動

1月29日、第1回部会が行われました。部会は、資源探査部会・商品開発部会・広報部会の3部会からなります。委員は、それぞれ部会に分かれ、リーダー等の選出後、部会ごとのテーマについて議論しました。

資源探査部会

リーダー／中山 弘

〔役割〕本エリアの魅力を掘り起こす・調査を行う

- ▶ エリアにおける聞き取り調査や現地調査、幻の草津街道を探すことを目的として活動していきます。
- ▶ 雪どけ前に、具体的な知識人に聞き取り調査を実施し、雪どけ後、反里口から見玉間の草津街道といわれるところを実地調査します。



商品開発部会

リーダー／小林 幸一

〔役割〕本エリアの魅力を紹介する商品を開発する

- ▶ ターゲットとコンセプトを考慮したブランド化
「雪」をテーマ・特化した商品開発、「雪」を見せるツアー・ルートについて話し合いました。
- ▶ トチノミを利用した商品（昔ながらの製造方法も考慮しながら）、冬季ならではのツアー案（スノーシュートレッキング 結束・トチ林）などを今後具体化していきます。



広報部会

リーダー／内山 義幸

〔役割〕本エリアの魅力を紹介・発信する

- ▶ ホームページ制作など、エリア内外への発信について協議しました。
- ▶ ホームページの制作を急ぎ、ロゴ・写真コンテストの募集を行います。住民への周知活動として広報誌・地元新聞への連載記事掲載などを検討します。



なじょもん塾 開講

1月22日、なじょもん塾が開講され、雪が降りしきる中、25名もの参加がありました。

今回は、広告や企画・デザインの仕事をされ、雪国観光圏のブランドマネージャーや大地の芸術祭実行委員などもされているフジノケン氏に講師をお願いしました。

「ブランド」とは？この地ならではの雪をテーマにした町づくりなどのお話を聞きながら、参加者が町づくりについて思うこと、津南のイメージや、雪、ジオパーク構想について意見を交わしました。

フジノさんのお話で興味深かったのは、「ブランド」とは、商品などの「見え方としてのブランド」と「ふるまいとしてのブランド」があるということです。

よいものをつくる、販売するのは当たり前の時代ですが、つくったり販売したりしている企業や団体の理念や社会貢献なども消費者は重要視する時代であるということだと思います。

さらに、消費者は、旅行を計画したり、何かを買おうと思ったときに、インターネットなどを利用して他の消費者（特に身近な説得力のある）の意見を参考にすることが多くなっているそうです。

それから、企業とのタイアップは協賛金などが必要な場合があるが、情報発信力は大きい、ということを教えていただきました。

雪に関しては、積雪期のスノーシューを利用したトレッキングなど、ジオパークと関連して、他にはないたくさんの可能性を感じました。

参加者からは、普段暮らしていると自分の町の魅力について考えることが少ないので再認識してみたい。雪下ニンジンが甘くなるように、雪の厳しさを知っている人間は優しくなれ、その人が町の魅力になるのではないか。ジオパークについては、知らない住民が多いので周知活動をもっとしてほしい。など様々な意見が出されました。





ジオパークガイド養成講座 第1回が行われました

1月20日、津南町役場にて第1回ジオパークガイド養成講座が開催されました。

一般申込み、津南ふるさと案内人、観光協会関係者など合わせて、準備室の予想を遥かに上回る約80人の参加がありました。

準備室長の佐藤雅一により講座が行われ、スライドを見ながら、「ジオパークとは？」や「苗場山麓ジオパークの魅力と構想について」などを学習しました。

質疑応答では、子どもたちが化石ほり体験などを行える場所を整備してほしい。他にも苗場山麓ジオパークの見どころとなりうる景観がいくつもあるなど、様々な意見や要望が出ました。

今後は、3月まで月2回の座学、4月以降雪どけを見ながら現地研修を行っていく予定です。

ガイド養成講座スケジュール

- 第2回 2月5日(水)「火山活動について」
会場：役場3階大会議室
- 第3回 2月19日(水)「河岸段丘について」
会場：津南町文化センター ホール
- 第4回 3月5日(水)「自然環境と人間について」
会場：津南町文化センター ホール
- 第5回 3月19日(水)「段丘に展開した雪国縄文文化について」
会場：津南町文化センター ホール
- 第6回～第10回 4月以降
ジオサイト現地観察・実地研修など
(第2回～第5回の時間は18:30～20:00を予定しております。)



第1回ガイド養成講座の様子

COLUMN

大地の息吹と
現代を結ぶ

世界に誇る「雪」② ～雪の恩恵～

雪は、寒い・冷たい・大変という印象がありますが、雪は空からの贈り物と言った研究者がいます。雪が降り続いた後の晴れた日の青空や景色の素晴らしさには、息をのみます。雪が降り積もり厳しい冬があるからこそ春の訪れの素晴らしさを感じることができるという人もいます。

また、雪には、「粉雪」「綿雪」「べた雪」「あわ雪」など多くの名前もつけられているのも、日本ならではの。

遥か5,000年前の縄文時代も現在と同じ量の雪が降ったそうです。そのため冬は、思考する時間であったとされ、それゆえに火焰型土器という造形豊かな縄文土器が作られたのではないかとされています。そして、雪原は見通しが良く、獲物である動物が良く見えるため狩猟の時期でもありました。さらに、ソリを使えば重いモノを運ぶこともできます。このようなことから、縄文時代も移動することなく、この地で越冬していたと考えられています。

また、この雪は大地にしみ込み、豊富な湧水となります。この水によって本地域では、美味しい魚沼産コシヒカリや日本酒などが作られています。

このように「雪」は、この地域を特徴づける要素の1つです。

そして、この「雪」をテーマにした苗場山麓ジオパーク構想が展開しています。

春から秋は雑木などに阻まれて近寄れない場所でも、降り積もった雪の上を歩くことによって近づけるようになります。その一つが、萌木の里の西側にある「結束のシシ穴」です。「結束のシシ穴」は、鳥甲山溶岩による柱状節理のある崖です。スノーシューを履いて雪原を歩いて行き、崖の真下まで近寄るとその柱状節理の雄大さに圧倒され、その表情まで観察できます。さらに、雪原には動物たちの足跡や、天然記念物のニホンカモシカをみることができます。

これらは、「雪」があってこそその醍醐味です。

「雪」があるからこそできるジオツアーを、一緒に考えてみませんか。



結束のシシ穴

めざせ！ 苗場山麓ジオパークのジオサイト

57 の見どころを随時紹介していきます

龍ヶ窪



所在地 津南町

種別 地質

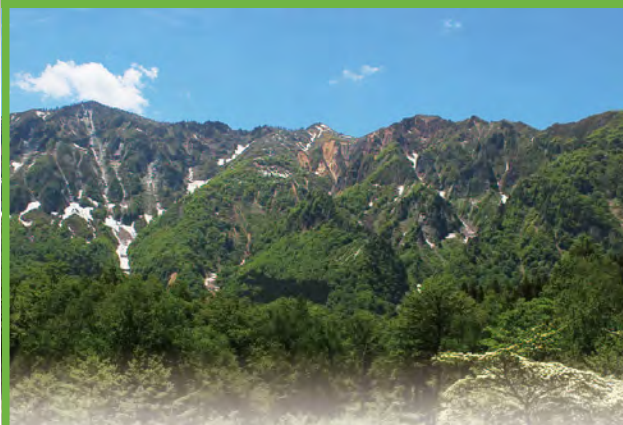
中津川左岸に広がる段丘面、“沖ノ原台地”は標高約450mです。この台地の上にさらにこんもりと広がる台地があり、そこに妙法牧場が営まれています。このこんもりとした丘陵の基盤は苗場火山の溶岩です。その流れ下った先端部が起伏のある崖線を形成しています。その苗場火山の溶岩層と下部にある魚沼層群との境から湧水があり、その一つが「龍ヶ窪」です。

龍ヶ窪は約1.2万㎡の広さを持ち、水深は約1.5mです。湧水量は季節によって異なりますが、毎分18～30トン、平均水温8～10度です。この湧水量は、龍ヶ窪の水が1日で入れ替わる量です。水年代（雨や雪が池中に浸み込み、湧き水になるまでの時間）は、調査によるとおよそ40年ということが分かりました。水質は、ミネラル含有量が19mg/Lの超軟水に分類されます。このような美味しい水質と豊富な湧水量から1985年「日本名水百選」に選定されました。

畔には、岡・谷内各集落の弁天様が祀られています。ブナやスギで覆われた佇まいは神秘的で、数々の龍神伝説が残っています。

さらに、この湧き出る水を田んぼのほかに冬季の融雪に利用する用水網は全国的に稀であり、雪国の極めて重要な歴史文化的景観を岡集落内で見ることができます。

鳥甲山



所在地 栄村

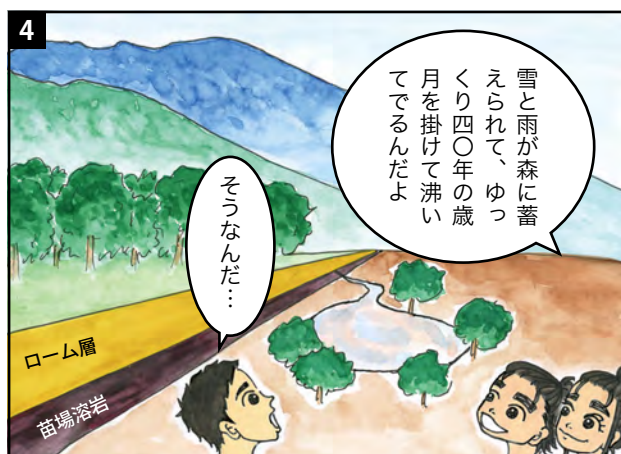
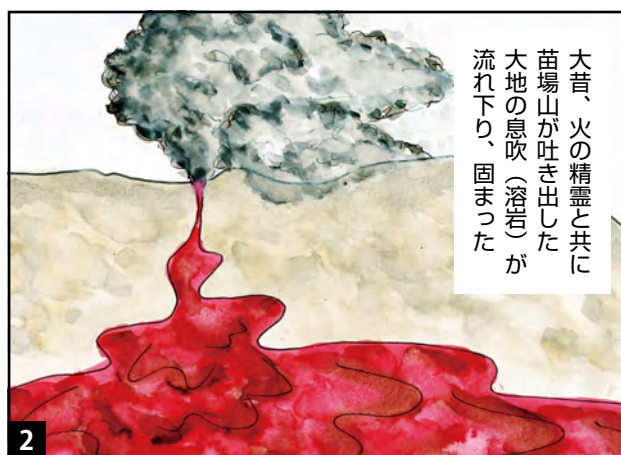
種別 地質

鳥甲山は、標高 2,037m の火山です。赤倉山—鳥甲山—剃刀岩—白倉山の連山を含んで「鳥甲火山」と総称します。

3 回の火山活動期が知られており、その形成は約 77 万年と考えられています。中津川上流の屋敷や切明、その支流の雑魚川沿いには、鳥甲火山の噴出物が広く分布し、布岩山の溶岩には見事な柱状節理が観察できます。雑魚川沿いの鳥甲山麓にはカルデラをつくる大爆発が起こり、軽石流堆積物やカルデラ湖にたまった粘土層が見られます。

古くは赤倉山と呼ばれ、鈴木牧之は、その山並みを「赤倉山」と呼び、あえて赤茶色で表現しています。牧之が描いた赤倉山には、五ヶ所の主峰とその前後の小峰が複数描かれており、これらを指して「十三万仏山」とも呼んでいると記され、赤倉山の各峰を十三仏に見立てて信仰していたことが伺えます。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。



今後のスケジュール

- | | |
|------------------|-------------------------------|
| 平成 26 年 2 月 13 日 | 住民説明会（中深見地区 会場：船山新田公民館） |
| 2 月 18 日 | 住民説明会（大割野・みゆき・正面地区 会場：文化センター） |
| 2 月 19 日 | ジオパークガイド養成講座 第 3 回 |
| 2 月 24 日 | なじょもん塾 第 2 回 |
| 2 月 25 日 | 住民説明会（下船渡地区 会場：なじょもん） |
| 2 月 26 日 | 振興協議会・学術検討委員会合同会議および懇親会 |
| 2 月 27 日 | 住民説明会（津南原地区 会場：米原公民館） |

PICK UP!

住民説明会

先日、逆巻・清水川原・見倉・大赤沢集落で住民説明会を行いました。参加して下さったお年寄りからは、「熊の落とし穴」の場所や「苗場山の火口跡」と言われる場所など私たちも初めて聞くような場所について教えていただきました。嬉しくなると同時に、このような年配者からの聞き取りや、更なる探査の必要性を感じました。住民説明会はジオパークについて知ってもらう取組ですが、併せて地域の宝を探す調査の側面があると感じました。

